（４）３歳児

３歳児　実践事例　いっしょに遊ぼう　げんきッズ～大きなラディッシュごっこ～（９月）

観点（　生活　）　　視点（　健康　～げんきいっぱい～　食育　）

【遊びの経過】
クラスの菜園活動で、毎日水やりや草取りをして大切に育てたラディッシュを収穫し、給食で味わってきた。また、食育絵本から始まった「げんきッズあそび」を通して、元気な体や身近な食べ物への興味が少しずつ見られるようになってきた。

→

【ねらい】
食べ物が元気な体をつくることを知り、身近な食べ物を進んで食べようとする。

【評価】
・歌を歌ったり、げんきッズになりきって体を動かしたりして遊ぶことを通して、体を動かす力となるいろいろな食べ物を食べようとする気持ちをもつ。

【○幼児の様子　★環境の構成　■保育者の援助】

★げんきッズのパネルシアターは、見やすいよう高さに配慮する。

○パネルシアターを見ながら、元気な体のもとについて話したり、歌ったりする。

■知っている食べ物の名前を出し合うことで、友達と共通のイメージをもち、身近な食べ物への興味や次の活動への期待がもてるようにする。
■子どもの言葉を受けとめながら、やりとりを進め、子どもたちの「元気に大きくなりたい」という気持ちを高める。

○げんきッズに変身して、いろいろな動きをする。

★赤、黄、緑のブレスレットを用意しておく。

■好きな色のげんきッズのブレスレットを選び、身に付けることで、これから始まる遊びに期待をもち、食べ物の力（栄養）への興味が広がるようしていく。
■自分なりの工夫した動きを引き出せるように、ピアノの音の強弱やリズムに変化をもたせる。
■いろいろな動きを楽しんでいる子どもの姿をまわりにも伝え、挑戦してみようとする気持ちを高める。

○げんきッズの力を合わせて、大きなラディッシュを抜く。

★保育者がラディッシュ役になる。

■友達とつながってひっぱるのが難しい子どもには、保育者が手助けをし、一緒に楽しめるようにする。
■「どうしたら抜けるかな。」と、子どもたちに問いかけ、子どもの発想を受けとめていく。
■大きなラディッシュが抜けたのは、元気で力がいっぱいあったからだと知らせ、これからもいろいろな食べ物を進んで食べていこうという意欲につなげていく。

【考察】
パネルシアターを使った歌遊びで、身近な食べ物を栄養素の色別に分類して楽しむ姿が見られた。また、食育絵本で親しんでいる「げんきッズ」のブレスレットを付けたことで、活動への期待が高まり、友達と一緒にいろいろな動きを楽しむことができた。今後も引き続き運動遊びやごっこ遊びの中で「げんきッズあそび」を継続していく。また、調理員とも連携をとりながら、子どもたちが親しみをもっている「カミカミデー」に登場する「カミカミちゃん」を遊びの中に取り入れていく。何でも食べることが元気な体をつくることにつながるという視点で食に関する興味や関心、食事への意欲の向上につなげていきたい。

3歳児　実践事例　　秋のおもしろいもの　いっぱい見つけよう　（　10月　）
観点（　人とのかかわり　）　　視点（　自己発揮　～みて　きいて～　）

【遊びの経過】
子どもたちは、園庭の木々の様子を観察し、実が熟すのを楽しみに過ごしたり、夢中になって虫探しを楽しんだりしている。その中で、自然物や虫を見つけたり捕まえたりする喜びや、気付いたり不思議に思ったりしたことを保育者や友だちに知らせに来るようになり、友達を誘って一緒に園庭探険に行ったりする姿が見られるようになってきた。

【ねらい】
自然を散策する中で、気付いたり、感じたりしたことを伝えようとする。

【評価】
・自然物や虫などについて、見つけたり、驚いたり、気付いたりしたことを、表情や動き、言葉にして周りの友達や保育者に伝えることを楽しんでいる。

【〇幼児の活動　★環境の構成　■保育者の援助】

★事前に下見をして、危険な場所や散策コース、どんぐりポイント等を把握しておく。
★子どもたちが思い思いの自然物を持ち帰ることができるように、全員分の袋を用意しておく。

〇公園を散策し、どんぐりや落ち葉を拾ったり、虫を見つけたりする。

■みんなで散策する楽しさや発見した喜びが味わえるように、保育者も子どもたちと一緒に自然物を探す。子どもたちのつぶやきに耳を傾けたりすることで、一人一人の気付きや喜びに共感していく。
■自然物（どんぐりや葉っぱなど）の大きさ・形・色などの違いにも気づけるように声をかける。
■どんぐりや虫などの名前を一緒に考えたり、周りの友達と見せ合ったりするよう声をかける。

〇見つけた物を見せたり、発見したことや驚きを伝えたりしようとする。

■友達が発見した物や疑問に感じていることなどを周りの子どもにも知らせ、面白さや嬉しさを共感したり、一緒に考えたりできるようにする。
■子ども同士が楽しそうにやり取りする姿を見守る。
■自然を介した子どもたちの自由な発想や表現を引き出すため、敢えて疑問形で投げ返すようにする。
■子どもたち一人一人の表現を認め、安心して思いや考えを伝えることができるようにする。

【考察】
散策する中で見付けたり、感じたりしたことを保育者や友だちに言葉で伝えていた。友達の気付きや楽しんでいることにも興味や関心を示し、一緒にその喜びや面白さを共感しようとする姿も見られていた。中には運動会競技の経験から、クモの巣くぐりに興味を示す姿も見られた。このことから、五感を働かせながら身近な自然物とかかわる心を動かす体験が重要であることを改めて感じた。園庭の自然環境や園舎のまわり、近くの公園など地域の豊かな自然と直接触れ合う体験を通して、好奇心や探究心を育んでいきたい。また、自然のすばらしさに感動するとともに、子どもの心に共感する心を持った保育者でありたい。

３歳児　実践事例　　みんなで船ごっこをしよう　（　１１月　）

観点（　人とのかかわり　）　視点（　協同性　～いっしょにやろうよ～　）

【遊びの経過】
スポンジや積み木の乗り物を作って遊ぶのが大好きな子どもたちは、次から次へといろいろな乗り物の運転をしたり、その中でご飯を食べたりするなど、楽しい遊びを友達と考えられるようになった。次は船を作って遊ぼうと気持ちが高まっている。

【ねらい】
ごっこ遊びを通して、友達とのやりとりを楽しむ。

【評価】
・船ごっこを通して「出発するから乗って。」「一緒に食べよう。」など、友達との会話を楽しみながら遊んでいる。

【〇幼児の活動　★環境の構成　■保育者の援助】

★子どもの思いをつなげる活動とするために、作って遊べるコーナーを用意しておく。
（保育室に船ごっこができる空間を設定、魚つりなどができるようにカップや画用紙の準備）

〇友達と一緒に船ごっこを始める。

■柵やダンボールを使って、大きな船を作り、たくさんの子どもが中に入って遊べるようにする。
■舵にビニールテープを巻いたり、船に好きな色を塗ったりできる環境を設定し、子どもたちがそれを使って遊びを進めることができるよう声をかける。

〇船の中で「お魚パーティー」や「誕生会」をして遊ぶ。

■船の中での遊びが少しずつ広がっていく様子を見守り、友達に自分がこうしたいという思いを伝えている姿を認めていく。
■船の中で船長をする順番や魚つりをする場所取りなどで、思いがぶつかる時は仲立ちをし、必要な言葉かけをしていく。

★望遠鏡や水中ゴーグルなどを使って遊べるように、道具を見える所に出す。

〇海に潜って魚をとって遊ぶ。

■望遠鏡を使って船の中からのぞくだけでなく、水中ゴーグルを使って海に潜って魚をとっている子どもたちの新たな遊び（子どもたちの気付き）を認め、一緒に楽しんでいくよう道具の場所を知らせる。
■明日も引き続き遊べるように船をそのまま残しておくことを伝え、遊びが続けられる安心感や期待感をもたせるようにする。

【考察】
ごっこ遊びで友達とのやりとりを楽しむ中で言葉を覚える子どももいた。また、船や海の中でのイメージをふくらませながら遊びを楽しんでいた。子どもたちの思いや考えを保育者が見取り、道具などの環境を再構成したことにより、子どもたちが夢中になって遊ぶ姿が見られた。このように、子どもたちが自ら夢中になって自分たちの遊びを深め広げていけるように、保育者が見取った幼児の姿や成長について情報交換できる場を設け、一人一人の遊びを充実させる具体的な援助や環境の構成について全職員の共通理解のもと進めていきたい。

３歳児　実践事例　　クリスマスごっこをしよう　（　１２月　）

観点（　人とのかかわり　）　視点（　協同性　～いっしょにやろうよ～　）

【遊びの経過】
日々の遊びの中で、身近な体験からイメージを膨らませてごっこ遊びを楽しむ様子が見られている。１２月に入り、クリスマスへの期待も高まっている中、クリスマスの歌を歌ったり、絵本を読んだりしていくことでクリスマスを楽しむ気持ちをもちながら遊ぶことができるようになってきた。

→ 【ねらい】
それぞれの思いを出しながら、友達や保育者とかかわって遊ぶことを楽しむ。

【評価】
・やりたい遊びや遊びたい場所を見つけて、自分の思いを伝えながら、友達や保育者と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。

【○幼児の活動　★環境の構成　■保育者の援助】

★クリスマスごっこの共通のイメージをもち、遊びを広げていけるように、これまでに読み聞かせたクリスマスの絵本の掲示コーナーを作り、いつでも手に取れるようにしておく。
★それぞれのコーナーに必要な道具や材料を準備しておく。（空き箱、包装紙、カップ、ドングリなど）

○自ら選んだコーナーややりたい役でクリスマスごっこを楽しむ。

＜サンタのおうちプレゼント作り＞

プレゼントができたら、袋に入れて届けよう。【意欲】【楽しさ】

寝て待っている友達にプレゼントを作るぞ。【意欲】【提案】

どうやって巻こうかな。【相談】【思考】

＜ケーキ屋さん＞

ケーキができたら、ケーキ屋さんをしよう。【見通し】【期待】

この上に、どんぐりを飾ろうよ。【提案】

ケーキが売り切れたから、もっと作ろう。【意欲】

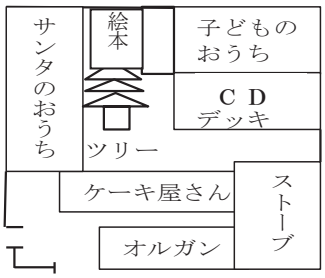
＜サンタに変身＞

○○ちゃんたちが寝ているから、一緒にプレゼントを届けよう。【人とのかかわり】【共通の目的】

プレゼント、喜んでくれるかな。【期待】

寝ている友達を起こさないように、そっと届けよう。【思いやり】【提案】

★それぞれのコーナーを設定



■保育者が、一人一人の言葉を丁寧に聞き、思いを伝えながら遊ぶことの楽しさを感じられるようにする。
■子どもたちが役になりきって言葉を交わす様子に共感し、友達とやりとりする楽しさを感じられるよう必要に応じて会話に加わる。
■子どもたちが夢中になって遊んでいる姿を認め、まわりの子どもたちにも紹介していくことで、友達の遊びにも目を向けられるようにしていく。

【考察】
自分の思いを周りの友達に伝えられるような保育者の言葉かけや援助を大切にしていくことで、子どもたちは自分なりにイメージを広げ、夢中になって遊ぶことができた。また、役になりきって友達と言葉を交わす中で、もっとこんなことができそうだという思いをもち、遊びを楽しむ姿が見られた。今後も、子どもたちがイメージを共有しながら自分たちの遊びを広げていけるように、子どもたちの興味・関心がどこにあるのかを確かに見取ることで、主体的な活動につなげる適切な環境について考えていきたい。